

令和6年度 学力向上指導改善プラン

武庫小学校長 大向 勲

学校教育目標		未来を生き抜く力と健やかな体の育成		4月		2～3月		
推進主体		管理職と学力向上担当を中心に 学力向上推進委員会を設置		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立等)		
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
						評価		
学 力 の 状 況	全国学 力・学 習状 況調 査結 果の 状 況 (国語、 算数、 数学に 関する 質問調 査の結 果も含 む)	国語	◆問題を読み取って題意を把握し、自分の考えを書いたり、理由を述べたりすることに課題がある。(経年) ◆人の前で話すときの話し方に課題がある。	○読解力や自分の考えを構築する力をつけさせるとともに、書きに対する苦手意識を軽減させる。 ○時と場合に応じた話し方を身につけさせる。	○「読むこと」領域について、問題形式が記述式の設問における正答率を70%以上にさせる。 ○教室や放課において、相手に分かりやすく伝わるような話し方、場に応じた声の大きさに注意するようにする。	○朝読書の時間を効果的に活用し、読書習慣を身につけさせる。 ○書く学習においては、iPadを活用し、書きに苦手意識を持つ児童について表紙を書くを重視するようにする。 ○低学年から読書を立てて説明する指導を行い、ペアワークや小グループの交流など自分の考えを伝える場を多く取り、授業において、機軸をもとに考えたり説明したりすることを意識させる。	○週に2日朝読書に取り組みたり、学校図書館司書と連携して読書活動を推進したりしたこと で、読書の習慣が身についた児童が見られた。また、少しづつ内容の読み取りができるようになってきた。 ○書く学習において、iPadを活用することで、自分の思いや考えを伝えることに対して楽しく取り組めるようになった。 ○自分の考えを、人の前で話すときの話し方に課題がみられる。聞き手を意識した話し方を身につけさせさせたい。	△
		算数	◆九九が定着できていない児童いる。(経年) ◆自分の考えを言葉や図、式で説明することに課題がある。	○九九や四則計算といった基礎的基本的な力を定着させる。 ○言葉や図、式を使って自分の考えを説明できるようにする。	○四則計算の定着に向け、ミライシードのドリルパークを積極的に活用して、基礎的な九九を定着させられるよう、放課後のひまごころんりタイムを2年生生に向けておこなう。 ○授業において、関係図・線分図・数直線などの図を活用し、基準量・比較量を図に表してから立式したり、自分の考えを図や式で説明したりする活動を実践する。 ○自分の考えを説明させるときは、式中の数字の単位を意識させたり、式中の数字と図を結び付けて説明させたりする。	○授業での練習問題や、空き時間を活用した補充問題として、ミライシードのドリルパークに 取り組んだり、ひかえし取り組みることができるので、タブレットを持ち帰った際の課題としても活 用できる。計算ドリルの活用で次年度も取り組んでいく。 ○小中連携で中学校区校における課題として、九九の習得が上がっている。今年度は、空 き時間を活用し、4月から10月までの間、3年生対象に九九の練習を行った。次年度も、がんば り学習タイムを活用するなど、特に2、3年生において九九の完全定着を目指して取り組んで いく。	○	
	定期テスト、単 元テストなど による状況(各 教科)	◆記述形式の問題において、無回答で提出する児童が各クラス に数名いる。	○各教科の理解を促すために、学習習慣を身につけさせる。	○単元テストにおいて、あらかじめ前向きな姿勢で取り組み、無 回答で提出する児童の割合を0%に近づける。	○ユニバーサルデザインの視点で授業を構築し、すべての児童 が学習に前向きに取り組めるよう研修を行う。 ○家庭学習の手引を全児童に配布し、使い方を指導する。	○構造化を意識して授業を行うことにより、多くの児童がスムーズに授業に参加できるよう になっている。次年度、ユニバーサルデザインをテーマに研究を進め、すべての児童が「わか る、できる」ことをめざす。 ○家庭学習については、引き続き手引きに沿った学習習慣を出し、年度途中で確認する必要 がある。また、学習習慣の定着度合いには差があるため、保護者と連携をとりながら、放課後 学習等も補っていく必要がある。	○	
	授業中からうら がえる状況(各 教科)	◆授業中、姿勢を保持することが難しい児童が各クラスに数名い る。 ◆みんなの前で自分の考えを積極的に話す児童に限られている。	○すべての教育活動の中に「からだづくり」を位置づけ、主体的 に学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 ○のびのびと自分を表現できるクラスづくりを進める。	○学校評価における「主体的に学習に取り組む」項目の評価にお いて「できていない」という回答を5%以下にする。	○キックン体操、リズム縄跳びを継続的に行うことで体幹を鍛え、 学習習慣を身につけやすからだを育成する。 ○安心感「達成感」「有用感」を教師の間で合言葉にしたことで、児童が安心して表現できる 教室環境、雰囲気作りが進められてきた。今後も継続して取り組むことを大切にしたい。 ○リズム縄跳びを週1回定着させることで、体感を鍛える一助となった。	○週に2日ずつ、朝の時間にキックン体操や読書タイムに取り組むことで、授業時に落ち着 いた気持ちで学習に取り組めるようになっている。 ○「安心感」「達成感」「有用感」を教師の間で合言葉にしたことで、児童が安心して表現できる 教室環境、雰囲気作りが進められてきた。今後も継続して取り組むことを大切にしたい。 ○リズム縄跳びを週1回定着させることで、体感を鍛える一助となった。	○	
学 力 向 上 に 関 連 する 学 習 状 況	全国学 力・学 習状 況調 査の 質 問 の 状 況	◆自尊感情が低く、先生から認められていないと感じている児童 が少なからずいる。 ◆ゲームやタブレットの使用時間が長時間に及んだり、睡眠時間 が短く朝起きられなかったり、生活習慣が身についていない児童 が多い。	○自尊感情を高める取り組みとネットモラルを含めた情報リテラ シーの向上を図る取り組みを促進する。	○ゲームやタブレットの使用時間を減少させ、早めの就寝によ り生活習慣を身につけさせる。 ○自尊感情に関わる項目において、肯定的な回答を60%以上に する。	○遠征、生活指導、外部講師の招聘をバランスよく行い、ネット モラルを身につけさせる。 ○保健会や児童委員会など特別活動を中心に、児童が活躍する場 を設定し、「達成感」「有用感」「安心感」を感じられるようにする。	○「ネットモラル」について外部講師やSGIによる「心の教室」を行い自分の生活を振り返り、 今後どうしていきたいかを考えられた。 ○職員室や印刷室に、合言葉として「安心感」「達成感」「有用感」を掲示したことで、職員間で 意識することができた。	△	
	学校評価など のアンケート調 査による児童・ 生徒の状況	◆自分には良いところがないと答えている児童が33%いる。 ◆読書習慣が身についていない児童が63%いる。	○児童の自尊感情、自己有用感を高める。 ○読書習慣の定着を図る。	○児童アンケートの「自分にいい所があるか」という設問にお いて、肯定的な回答を20%以下にする。 ○児童アンケートの「家で本を読みますか」という設問において、 肯定的な意見を50%以上に増加させる。	○自尊感情を「達成感」「有用感」「安心感」を教師が常に意識 し、学級経営、授業づくりに加えて、 ○家庭読書、朝読書の取り組みの継続。 ○行間休みやお昼の放送などを利用し、図書委員や図書ボラ ンティアの活動を充実させる。 ○学校図書館司書と担任が連携し、常に身近に本がある状態を 作る。	○児童アンケートの「自分にいいところがあると思う」の項において、肯定的な回答をした児童 は78%で、肯定的な回答が21.4%であった。次年度、児童会の方で朝活動(ひこっ子活動) 等、充実した特別活動を達成して達成感や有用感を味わわせ、自尊感情を高めさせたい。 ○月1回の家庭読書は今後も継続し、意欲付けを図る。 ○図書委員会の活動やボランティアさんの活動を活発に行なったこと、また、学校図書館司書の 働きかけにより、図書室に足を運ぶ児童が多くなった。	○	
授 業 改 善	・主体的・対話 的に深い学びを 目指した授業改 善 ・ICT機器を効 率的に活用(ク ラウド環境を活 かした授業実施 等)	◆児童同士での対話の場面において、自分の考えを表現する力に 課題が見られる。 ○体育において、ふり返りをオウリングで提出させたり記録した試 験動画をともに次の作戦を考えさせたりした。 ○音楽において、オウリングを活用した動画の配信や、楽譜の配 布などを行った。 ○特別活動において、動画の作成やプレゼン発表など効果的に 使用した。 ◆情報モラルや著作権に関するリテラシーについては、定着させ ていく必要がある。	○ICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的に深い学び」の実 現に向けた授業改善を図る。	○資料紙の15年生までを受けた授業で、コンピューターなどの ICTでの程度使用したかという問いに対し、肯定的な回答の 割合を昨年度より3ポイント上昇させる。	○グループワークやペアワークなどの活動の開始ICTを活用するこ とで、どの児童においても自分の考えを表現しやすくなるようにする。 ○ノートやホワイトボードに加えて、イーボードをそれぞれに活用 し、用いて自分の考えを交流させる機会を積極的に授業に取り入 れる。 ○情報モラルや著作権に関する授業を、各学年に応じた内容、タ イミングで行うことで、情報リテラシー定着させていく。	○体育において、自分たちが運動している姿を動画に撮り、それを見ながら次の作戦を考えたり、 真正のフィードバックを受け入れたりすることができた。 ○音楽ではオウリングを活用して楽譜動画の配信や、楽譜の配布などを行った。 ○特別活動においては動画の作成やプレゼン発表など効果的に使用できた。 ○子どもたちが使う頻度が高くなってきているので、今後も情報モラルや著作権に関する授業 を適切なタイミングで行うことで、情報リテラシーを身につけさせていきたい。	○	
	校 内 研 究 の 状 況	○授業公開、実践交流会を経て、目指すべき児童を育てる授業 づくりについて考え、体育科における授業の流れや教師が抑える べき点を職員間で共有した。 ◆「感じる・わかる」ことができるようになるための手立について、さら に個々の教師の理解を深めていく必要がある。	○自ら考え、認め合い、学び合い、高め合う子どもを目指して研 究を進めていく。	○単元計画やめてて見える化し、見直し子どもたちと共有す ることによって学習を進めることができるようにする。	○単元計画やめてて見える化し、見直し子どもたちと共有す ることによって学習を進めることができるようにする。 ○「感じる・わかる」お互いに学び合える環境をつくる。 ○「感じる・わかる」するための手立について、研究推進委員 会を中心に研修を進める。	○授業公開、実践交流会を経て、「感じる・わかる」するための手立について考え、体育 科における授業の流れや教師が抑えるべき要点を、職員間で共有できた。 ○「感じる・わかる」お互いに学び合える環境をつくる。 ○「感じる・わかる」するための手立について、研究推進委員 会を中心に研修を進める。	○	
家 庭 ・ 地 域 等 の 状 況	○保護者アンケートの「学校は、見守り隊やボランティアなど保護 者・地域と協力、連携した取り組みを進めている」という設問では、 肯定的な回答が96%であった。 ◆子どもアンケートで「宿題をあまりしていない」と答えた児童が 10%いる。	○児童の成長や課題、目指す児童像についての共通理解と個に 応じた支援の充実を図る。	○児童理解に関わる校内研修会や授業実践の交流会を定期的 に開催する。	○定期的な研修会の開催とともに必要に応じてケース会議を持 ち、児童理解や支援方法、支援体制を検討する。 ○体育科における任意参加の研修会を、研究推進委員会が計画 して行う。	○家庭学習の手引きを配布し、学級懇話会や学校だより、学 年だよりで継続的に声掛けすること活用させていく。 ○児童の生活背景を十分に把握したうえで児童理解に努めると ともに、家庭学習や適切な生活習慣などを身に付けられるように保 護者・地域との連携を大切にしたい。	○家庭学習については、取り組みについて各家庭での温度差がみられる。定着が見られない 児童の家庭に向けて、継続的に声掛けしていく。また、学校だよりや学年だより、学級懇話 会での話にも取り上げていく。 ○むらこっ子活動など、教員や地域のボランティアさんが週一回学習を支援していただいているの でクラスでも声掛けしていく。 ○全校行事として、ボランティアへの感謝の会を開いたことで、自分たちを学習面や環境面で 地域の方々が支えてくれていることについて考えさせることができた。	○	
	小・中における 教科連携等の 状況	◆オープンスクールの参観、中学校の教師による出前授業(社会 科)が実施された。また、生活指導担当教員での小中共同研修や 特別支援学級の交流会が開催されている。	○小・中での連携を行い、スムーズな校種間の接続を図る。	○児童が抱く、中学校生活に対する不安を少しでも軽減させ、全 ての児童が安心して笑顔で進学していけるようにする。	○3学期に中学校の授業を体験させることで、中学校への不安感 を軽減させる。 ○学校間連携連絡会を定期的に開催し、学校間の連絡を密に する。	○中学校からの出前授業で国語や社会の授業を体験し、中学校の授業に向けての安心感 を持たせることができた。 ○学校間連携連絡会を開催したことで、各学校間での様子や課題について共通認識するこ とができた。	○	